



バイクを運転していて「危ないな」と思うことがよくあります。特に5、6歳の子どもの多いのですが「歩行者は右、自転車は左」ということがよく分かっていない様子。これでもし事故が起こったらと、不安になります。

また、夜間にウオーキングなどで外出する人は、必ず蛍光タスキなどをかけてほしいです。(川崎・女性)

市では、幼児から高齢者を

対象に、交通ルールやマナーを守り、交通事故から身を守る事ができるような交通安全の巡回指導を行っています。

近年、携帯電話や傘差し運転などのマナーの悪化により、自転車第一当事者となる交通事故も増加しています。

子どもといえども、一歩外に出れば立派な交通社会人です。自転車も「軽車両」であるということをしつかり自覚しなければなりません。自分の身を守り、そして相手の身を思いやる大切さを、今後も引き続き、交通安全教育や啓発活動で周知していきます。

また家庭でも、子どもと一緒に交通ルールやマナーについて話し合ってください。

夜行反射材の使用については、折に触れて市民の皆さんに呼び掛けていますが、今後さらに啓発していきます。



問い合わせ先 環境生活課
☎32・2056

つやまっ子に贈る100冊の本

魅力ある英雄たちの物語



推薦者 落合源一郎さん(山方)

中国の後漢末期から三国時代にかけて、力を尽くして戦乱の世を生き抜いた魅力ある英雄たち。その武勇と戦略が雄大に繰り広げられる『三国志』を初めて読んだのは中学生の時です。一気に引き込まれ、全巻を1週間ほどで読んでしまいました。

登場人物はもちろん、この作品の持つ義理・人情というか、兄弟や家族、主従関係の「愛ときずな」に魅力を感じ、その後、何度も

何度も読み返しています。

わたし自身、歴史物でこれだけ長いものを読み切ったのはこの作品だけです。全8巻にも及ぶ大作なので小中学生には少し難しいかもしれませんが、今は漫画やゲームにもなっているので、まずはそこから入ってみるのもいいかもしれませんね。

長い作品を読み切ると、それも一つの自信につながります。子どもたちには、時間はかかっても「読み切る」という経験もしてほしいですね。



『三国志』(全8巻)
吉川英治 著
(講談社文庫)

きらめく津山人

「気付く」ことの大切さ

津山っ子を守り育てる市民の会 会長

西尾保さん(志戸部)



青少年健全育成活動の推進を目的として平成2年7月に結成され、昨年20周年を迎えた「津山っ子を守り育てる市民の会」。会長の西尾さんに未来を担う子どもたちのための市民活動についてお話を伺いました。

活動を始めたきっかけは?

わたしの娘が小学校に通っていたころ、PTAの役員を引き受けたことが始まりです。そのうちに岡山県青少年育成県民会議の活動にも参加するようになりました。「津山っ子を守り育てる市民の会」には結成された当初から参加しています。青少年

健全育成活動にかかわって、33年になりますね。会の活動と役割について教えてください。

「子どもは地域で育つ」「おとなは地域で手をつなぐ」を基本方針に、津山市連合町内会からのバックアップをいただきながら、市内の青少年健全育成関係団体と学校、個人とが協力し、活動を進めています。「津山っ子かけこみ110番」の設置や「津山っ子こころのふれあいトーク」「人づくり街づくりクリーン作戦」などを実施しています。また、中学校単位のブロックでそれぞれ独自の活動も行っています。

わたしたちの役割は大人や子どもに「気付く」きっかけを提供することだと思っています。例えば、地域の店舗や家の人たちに引き受けってもらっている「津山っ子かけこみ110番」もその一つです。ある学区では、



▲津山っ子こころのふれあいトーク

PTA活動で年1回、店舗や家の人にお礼に何うようにしています。子どもたちの様子を聞くことで、親たちは、暑い日の学校帰りに水を飲ませてもらったことなど、自分の知らない地域での子どもが分り、改めて地域の中で子どもは育てられていることに気付き、感謝するきっかけになります。

また「津山っ子こころのふれあいトーク」では、中学生と大人とが日頃思っていることを話し合うことでお互いの考えや思いに気付けられることがあります。

地域と家庭、学校と一緒に行動を起こすことも大切だと思っています。その取り組みの一つがブロック単位で取り組んでいる「人づくり街づくりクリーン作戦」です。子どもと大人が集い同じ時間をともにすることで、それぞれの思いや考えを共有できると思います。

活動の中で、日頃感じていることは何ですか?

一般的に「今の子どもは昔の子どもと違う」とよく言われます。しかしわたしは、子どもではなく、地域や家庭など子どもを取り巻く環境が変わったのだ

と思います。現在のよう情報過多の世の中では、子どもたちは受け取った情報を正しく理解し、順応することが難しくなってきています。大人が子どもを導いてやる必要があります。その第一歩として「声掛け」が大切だと思います。簡単なあいさつからよいので、地域で子どもに声を掛けてほしいですね。

これからの活動について

会員一人ひとりができることは限られています。しかし、みんながそれぞれできることを行えば「津山っ子を守り育てる市民の会」として大きな活動ができると思っています。わたしも「生涯現役」という思いで頑張っていこうと思っています。

子どもたちの健全な成長を願い熱心に取り組む西尾さん。20周年の記念として、津山総合体育館西側にリンゴの木を植樹されたそうです。会の活動と同じく立派な実を結ぶといいですね。